

03.

編集委員会

編集委員会

上妻 志郎

(東京大学医学部産婦人科)

本学会における編集業務の開始は、昭和36年10月21日の超音波医学研究会発足にさかのぼる。電気関係学会シンポジウム「最近における超音波の医学的応用」に端を発した超音波医学研究会は、年2回の講演論文集を発行した。そして、昭和38年には、研究発表会で口演された演題の一部を英文化した英文誌「Japanese Medical Ultrasonics」が創刊された(図1)。昭和40年に学会名を日本超音波医学会と改称し、学会誌の名称は昭和41年の第4巻から「Medical Ultrasonics」となった(図2)。昭和42年(1967)第5巻に初めて編集委員会委員名が記載されている。東京大学医学部の佐野圭司先生(以下、敬称略)を委員長として、渥美和彦、奥島基良、竹内久弥、堤裕、安田力、井出正男、奥山大太郎、常本実、和賀井敏夫で構成

されている。昭和49年(1974)には、超音波医学の普及啓蒙を目的とし、11巻まで続いた英文誌「Medical Ultrasonics」を廃刊し、和文を中心とする「超音波医学」(図3)が創刊された。記念すべき第1巻1号には、順天堂大学医学部の北村和夫を委員長として、奥島基良、奥山大太郎、尾本良三、金井寛、小林純郎、竹内久弥、竹原靖明、仁村泰治、畑宏、平田経雄、福田守道、安田力、山本由記雄が編集委員として名を連ねている。特集や誌上講習会というように、教育的な内容の充実を意図したものであった。昭和50年からは年4冊が発行され、展望、よもやま話、施設めぐり、学会印象記など、活気に満ちた内容になっている。超音波医学の発展とともに、次第に多くの原著論文が掲載されるようになり、昭和58年

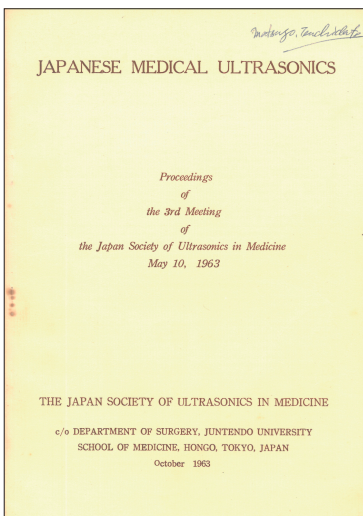


図1

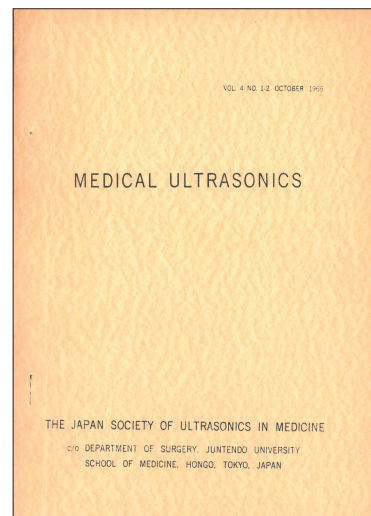


図2

(1983) 第10巻からは年6冊の隔月号が出版されるようになった。さらに、平成4年(1992)第19巻からは月刊となり、平成7年(1995)第22巻からは雑誌のサイズがB5判からA4判に変更されている。掲載された原著論文数は平成3年(1991)第18巻の年間81篇をピークとして、減少傾向を辿るようになるとともに、英文論文の重要性が増し、徐々に増加する傾向を示し始めた。そして、平成13年(2001)第28巻で英文誌「Journal of Medical Ultrasonics」(図4)が、発刊された。以降、年間で、和文誌6冊、英文誌4冊、抄録集1冊という構成になり、現在にいたっている。その時の編集委員は、委員長が札幌医科大学医学部の名取博であり、林輝美、宮崎豊彦、工藤正俊、平井寛則、斉藤雅人、蜂谷弘之、金井浩、石田秀明、谷口信行らが名を連ねている。英文誌の発刊当初は英文での投稿数が十分でないため、和文原著論文の翻訳に頼らざるをえない時期もあったが、次第に投稿数は増加し、現在ではその必要はなくなった。平成16年(2004)第31巻(図5)からは、英文誌の制作業務をSpringer社に委託し、新たな装丁が採用された。また、Thomson Scientific社のWeb of Scienceに登録され、2010年6月からはインパクトファクターを与えられ、本格的な国際

誌の仲間入りを果たしている。一方、和文誌では原著論文の投稿数が減少傾向にあり、総説や特集という教育的な学術記事が中心となっている。近年、会員のニーズは様々に変化している。和文誌でも、原著論文や症例報告数が増加する傾向も見せ始めており、今後の動向が注目される。

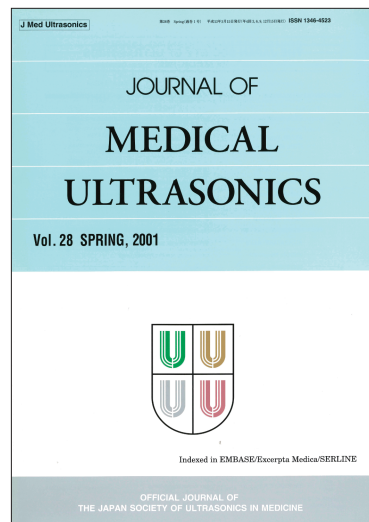


図4

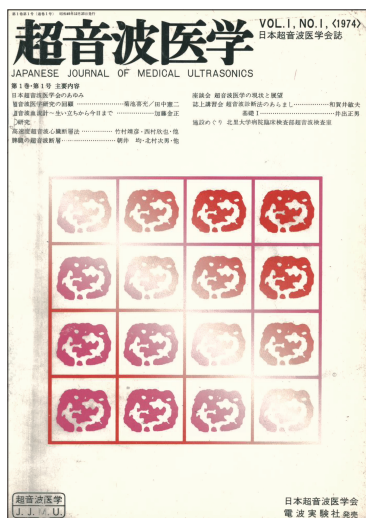


図3

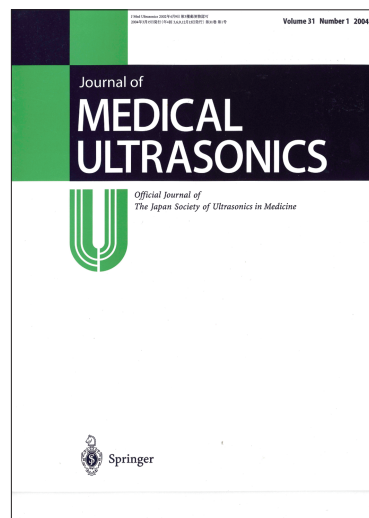


図5